



Copyright © 2018 NTT DATA INTRAMART CORPORATION

目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. IM-BPM for Accel Platform 2018 Spring からの変更点
- 4. 機能一覧
- 5. システム要件
- 6. 検証済み環境
- 7. サードパーティ ライセンス一覧
- 8. 制限事項
- 9. 保証規程
- 10. 著作権および特記事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2018-08-01	初版
------------	----

はじめに

本書の内容

本書では IM-BPM for Accel Platform のリリース内容について記載されています。

製品の利用対象

次の利用を対象としています。

IM-BPM for Accel Platform を利用した 業務プロセス の作成、実行を行う方

IM-BPM for Accel Platform 2018 Spring からの変更点

機能

- プロセス実行機能（一覧画面）
 - 自身が開始したプロセスインスタンスの一覧をIM-BPMユーザが確認できる画面を追加しました。
- プロセス実行機能（ワークフロー連携）
 - ワークフローの処理対象者展開プラグイン（ロジックフロー）に対してプロセス情報を連携する機能を追加しました。
- プロセス実行機能（IM-LogicDesigner連携）
 - プロセスインスタンスの検索を行うことができるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。
 - タスクの検索を行うことができるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。
 - タスクの処理対象ユーザを追加できるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。
 - タスクの処理対象グループを追加できるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。
 - エクスポートされたIM-BPMの定義情報をインポートできるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。
 - プロセスデザイナー上のプロセス定義をプロセス実行機能へデプロイできるIM-LogicDesignerタスクを追加しました。

システム要件

- intra-mart Accel Platform 2018 Summer のシステム要件に準じて変更しました。

検証済み環境

- intra-mart Accel Platform 2018 Summer の検証済み環境に準じて変更しました。

制限事項

- 追加された制限事項
 - システムで予約されているユーザコードがあるため利用できないコードがあります。
 - スタートイベント以外から開始されたプロセスインスタンスが開始済プロセス一覧画面に表示されません。
 - IM-BPMのIM-LogicDesignerタスクを利用したロジックフローのデバッグ実行時にエラーが発生する場合があります。
 - IM-BPMのプロセスから作成したワークフローの案件で実行されるロジックフローにてプロ

- 変更された制限事項
 - *Forma* アプリケーションに“*bpm_business_key*”を配置して業務キーを登録する場合、最大入力文字数は255文字までです。
- 削除された制限事項
 - IM-BPM Runtime
 - IM-FormaDesignerおよびIM-BIS連携を行う場合、案件番号を設定しても利用されません。

機能一覧

- IM-BPM for Accel Platform に含まれる機能の一覧です。

IM-BPM Designer

機能	機能概要
BPMNダイアグラムエディタ	BPMN2.0に対応したダイアグラムを作成することができます。
設計書出力	ダイアグラムを元に設計書を出力することができます。
デプロイアーティファクト作成機能	IM-BPM Runtimeに対して、デプロイ可能なアーティファクト（成果物）を作成します。 アーティファクトには、OpenRules用のルール定義ファイルや、BPMNダイアグラム、実行用のJavaクラス等が含まれます。

IM-BPM Runtime

機能	機能概要
プロセスデザイナー	BPMN2.0に対応したダイアグラムをブラウザ上から作成することができます。
	<p>リビジョン管理機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ダイアグラムのリビジョンを管理することができます。 ■ 過去のリビジョンのダイアグラムの内容を確認することができます。 ■ リビジョン間の差分を確認することができます。 ■ 過去のリビジョンのダイアグラムを復元することができます。 <p>設計書出力機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ダイアグラムを元に設計書を出力することができます。 <p>デプロイアーティファクト作成機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デプロイ可能なアーティファクト（成果物）を作成します。

機能	機能概要
デプロイ管理	<p>IM-BPM Designerにより作成されたアーティファクトをデプロイすることが可能です。</p> <p>「デプロイ管理」機能として、以下の操作を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デプロイ（デプロイを行うことによりプロセスの実行が可能です。） ■ アンデプロイ（実行中のプロセスインスタンスはアンデプロイと同時に削除されます。）
プロセス実行機能	<p>デプロイされた業務プロセスを実行することができます。</p> <p>タイマーイベントや、シグナル、メッセージイベント等を組み込んだ業務プロセスの実行を行うことができます。</p>
業務プロセス管理	<p>業務プロセスを管理するための機能です。</p> <p>プロセス定義の確認、モニタリング、バージョン管理、有効化、無効化等の設定を行うことが可能です。</p> <p>業務プロセス全体の状態を確認することができます。</p>
プロセスインスタンス管理機能	<p>実行中、または完了済みのプロセスインスタンスに対して、それぞれ個別に詳細を確認することができます。</p> <p>障害中のプロセスインスタンスは、再実行を行うことができます。</p> <p>タイムライン形式でプロセスインスタンスの実行履歴を確認することができます。</p> <p>実行中のプロセスインスタンスを別のバージョンのプロセス定義に移行することができます。</p> <p>プロセスインスタンスの移行は、個別に移行する、または一括で移行することができます。</p> <p>完了したプロセスインスタンスに対しては、ジョブを実行することでデータの退避を行うことができます。</p>
タスク管理機能	<p>BPMN上に配置したヒューマンタスクと連携する機能です。</p> <p>タスクは、グループ単位で管理する、またはユーザ単位でタスクを管理することができます。</p> <p>任意のユーザに対してタスクを割り当てることができます。</p> <p>ユーザ単位のタスクはポートレット上で閲覧することができます。</p>
インポート・エクスポート機能	<p>IM-BPMに関連する定義情報をIM-BPM Runtime間で移行させるための機能です。</p> <p>以下の定義情報をインポート・エクスポートできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デプロイメント情報（プロセス定義、jarファイル、ルール定義） ■ 一覧画面の表示設定 ■ プロセスデザイナーのプロジェクト（プロジェクト情報、プロセス定義、リソース）

機能	機能概要
業務手順書配置機能	プロセスやタスクを実行する際、または「プロセス定義詳細」画面において、業務手順書を関連付けることができます。
IM-FormaDesigner for Accel Platform連携機能	IM-FormaDesigner for Accel Platformで作成された画面と連携を行うことが可能です。 IM-FormaDesigner for Accel Platform画面から入力された内容は業務プロセス内に保管され利用することができます。
IM-LogicDesigner連携機能	IM-LogicDesignerにより作成されたロジックフローを呼び出すことができます。 これにより、外部システムとの連携やintra-mart Accel Platformの持つ様々な機能との連携を行うことができます。
IM-Workflow連携機能	業務プロセスからワークフローを呼び出すことができます。 IM-BPM for Accel Platform により、複数のワークフローを一つの業務プロセスとして管理することができます。
IM-BIS for Accel Platform連携機能	業務プロセスからIM-BIS for Accel Platformにより作成されたワークフローを呼び出すことができます。
Elasticsearch連携機能	業務プロセスの実行内容をElasticsearchに対して保存することができます。 Kibana等を利用することにより、業務プロセス内で利用されたデータを可視化することができます。

システム要件

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

サーバ要件

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform 2018 Summer
- 利用する intra-mart Accel Platform のサーバ要件に準じます。



注意

IBM製品（WebSphere Application Server）、Microsoft製品（SQL Server）をご検討の場合は事前に弊社までご相談ください。

クライアント要件

- 利用する intra-mart Accel Platform のクライアント要件に準じます。

IM-BPM Designer

- eclipse 4.2 のリリースノートに準じます。
 - eclipse 4.2 (Juno) release notes :
http://www.eclipse.org/eclipse/development/readme_eclipse_4.2.html

ライセンス要件

IM-BPM for Accel Platform を利用するためには、下記のライセンスが必要です。

種別	ライセンス
プラットフォーム	intra-mart Accel Platform [Advanced Edition]
エクステンション	IM-BPM for Accel Platform

検証済み環境

- 以下、弊社動作検証済みの intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせです。

サーバ環境

- intra-mart Accel Platform 2018 Summer の検証済みサーバ環境に準じます。

クライアント環境

- intra-mart Accel Platform 2018 Summer の検証済みクライアント環境に準じます。

IM-BPM Designer

- OS : Windows 7 64bit
- Java : Java 8 Update 51

サードパーティ ライセンス一覧

IM-BPM Runtime

サードパーティ	バージョン	ライセンス	URL
Activiti	5.22.0	ASL	http://activiti.org
Java Uuid Generator	3.1.3	ASL	https://github.com/cowtowncoder/java-uuid-generator
jQuery	1.7.2	MIT	https://jquery.org
jQuery Flot	0.8.3	MIT	http://www.flotcharts.org
AdminLTE	2.4.5	MIT	https://github.com/almasaeed2010/AdminLTE
exprjs	0.0.2	MIT	https://github.com/jleibund/exprjs
stackblur	1.0.0	BSD	http://www.quasimondo.com
lodash	4.17.4	MIT	https://lodash.com
bpmn-moddle	0.13.0	MIT	https://github.com/bpmn-io/bpmn-moddle
bpmn-font	0.7.0	SIL	https://github.com/bpmn-io/bpmn-font
CodeMirror	5.29.0	MIT	https://codemirror.net/
Moment.js	2.19.1	MIT	https://momentjs.com/

IM-BPM Designer

サードパーティ	バージョン	ライセンス	URL
Eclipse Java EE IDE for Web Developers	4.2 (Juno) SR2	EPL	https://eclipse.org
Graphiti	0.10.2	EPL	https://eclipse.org/graphiti
Babel Language Packs	4.2.0	EPL	http://www.eclipse.org/babel
Activiti Designer	5.16.0	EPL	http://www.activiti.org

制限事項

IM-BPM Runtime

API利用時のトランザクション制御により振る舞いが変わる場合があります。

- プロセスを実行する操作をAPI経由で呼び出した場合、呼び出し時のトランザクション制御状態により振る舞いが変わる場合があります。
サービスタスクは、実行に失敗した場合リトライを行います、またリトライを行った後失敗した場合にはリトライを行った情報をデータベースに永続化し、サービスタスクで停止（障害中ステータスに遷移）します。
トランザクションが既に開始されている場合、かつ同期的にアクティビティを動作させる場合には呼び出し時点までロールバックされます。
トランザクションを開始していない場合、サービスタスクで停止します。

Activitiの動作仕様に準拠します。

- プロセスの実行には、Activitiを利用しています、プロセスの挙動に関してはActivitiの動作仕様に準拠します。
IM-BPM for Accel Platform では以下の事象を確認しています。
 - シーケンスフローとゲートウェイを組み合わせた場合、かつタスク等を配置しないループするフローを記述した場合、処理が終了せず無限ループに陥る場合があります。

イベントサブプロセスに境界イベントを配置した場合プロセス実行に失敗します。

- IM-BPM Designerでは、イベントサブプロセスに境界イベントを配置することが可能ですが、イベントサブプロセスに対して境界イベントを配置した場合、プロセスの実行は行えません。イベントサブプロセスに対して境界イベントの配置は行わないでください。

設定ファイルにおいて、履歴レベルの変更は行えません。

im-bpm-config.xmlにおいて、履歴レベル history-level 項目には“audit”のみ指定が可能です。“none”または“activity”, “full”を設定した場合、画面が正常に表示されない場合が存在します。

一つのプロセスインスタンスに対して大量のマルチインスタンスのエグゼキューションを生成すると、プロセスの実行に失敗する可能性があります。

一つのプロセスインスタンスに対して大量のマルチインスタンスのエグゼキューションを生成すると、プロセスの実行に失敗する可能性があります。失敗した場合、処理の開始前の時点までロールバックされます。

“im_” プレフィクスで始まる変数名は全て予約されています。

以下の変数名は実行中に利用される変数の為、登録および更新を行わないでください。

- nrOfInstances
- nrOfActiveInstances
- loopCounter
- nrOfCompletedInstances
- im_operation_users
- im_bpm_task_id
- task
- execution
- authenticatedUserId
- bpm_forma_upload_items
- bpm_forma_upload_files

プロセス定義が不正な場合、マイグレーションに失敗する場合があります。

分岐の設定が正しく行われていない場合や、スクリプトタスク内のスクリプトが不正な場合等、プロセス定義が不正、不完全な場合、マイグレーションの実行に失敗する場合があります。

サブプロセス内のアクティビティをマイグレーション先として指定した場合、サブプロセスのマルチインスタンスについて制約があります。

サブプロセス内のアクティビティをマイグレーション先として指定した場合、かつサブプロセスにマルチインスタンスの設定が行われている場合、以下の制約が存在します。

- マルチインスタンスの設定が並列の場合は、一つのインスタンスのみ作成されます。
- マルチインスタンスの設定が順次の場合は、一つのインスタンスが終了後、サブプロセスから遷移します。

サブプロセス自体をマイグレーション先として指定した場合にはマルチインスタンスは正常に動作します。

マイグレーション先に、イベントゲートウェイの遷移先として指定されているイベントは指定できません。

マイグレーション先に、イベントゲートウェイの遷移先として指定されているイベントは指定できません。

マイグレーション実行時に、マイグレーション先のタスクが非同期タスクでも、同期的に処理を行います。

マイグレーション先のタスクが非同期タスクの場合でも、履歴を作成するため同期的に処理を行います。

IM-FormaDesigner連携を行う場合、アプリケーション種別「IM-Workflow」は利用できません。

IM-FormaDesigner連携機能では、アプリケーション種別「標準」のみ連携可能です。
アプリケーション種別「IM-Workflow」は利用できません。

IM-Workflow連携を行う場合、トランザクションファイルおよび添付ファイル保存先設定において、保存先としてストレージは利用できません。

ワークフロー連携機能を利用する場合は、IM-Workflowのトランザクションファイルおよび添付ファイル保存先設定 (transaction-file-save-location) に関して、未完了案件、完了案件の保存先としてストレージを利用する設定(1および2)は利用できません。

- 1: トランザクションファイル (XMLファイル) と添付ファイルをすべてストレージに保存する。
- 2: 未完了案件: トランザクションデータファイルをBinaryデータとしてデータベースに保存する。添付ファイルはストレージに保存する。
完了案件、過去案件: ストレージに保存する。

保存先としてストレージを利用した場合、IM-BPMにおけるワークフロー連携機能でのエラー発生時にデータ不整合が生じます。

設定値として、3または4をご利用ください。

- 3: 過去案件のみストレージに保存する
- 4: 全てデータベースに保存する

IM-FormaDesignerおよびIM-BIS連携を行う場合、画面アイテム「アノテーション」を配置したフォームを含むFormaアプリケーションのフローは利用できません。

画面アイテム「アノテーション」を配置したフォームを含むFormaアプリケーションのフローは、利用できません。

Formaアプリケーションに“bpm_business_key”を配置して業務キーを登録する場合、最大入力文字数は255文字までです。

プロセス開始一覧から業務キーを入力する場合は入力チェックを実施しているが、Formaアプリケーションの入力チェックは利用者側で実施する必要があります。
業務キーを格納するテーブルのカラムサイズによる制限です。

変数操作画面の一覧はページング機能が利用できないため、大量の変数が表示さ

複数のリクエストの結果をクライアントサイドでまとめて成型して画面表示していることによる制限です。

変数操作画面の変数編集ダイアログにて、String型の複数行入力を行うテキストエリアがInternet Explorerのみリサイズできません。

Internet Explorerがcssのresizeに対応していないことによる制限です。

Formaアプリケーションでアップロードされたファイルは、CallActivityで実行されたプロセスと共有されます。

CallActivity実行時に変数と違いファイルデータは複製されません。

そのため、CallActivityで実行されたプロセスのForma画面でファイルアップロードアイテムの登録済みファイルを削除すると呼び出し元のプロセスからも削除されます。

夏時間に対応していません。

IM-BPM Runtimeでは、画面に表示にされる時刻などに関してタイムゾーンを考慮して表示・操作を行えるように対応していますが、タイムゾーンの計算を行う際に夏時間を考慮していません。各タイムゾーンの標準時間に合わせてタイムゾーンの計算を行っています。

IM-BPM管理者は、任意のJavaコードをサーバ上で実行することが可能です。

IM-BPM Runtimeでは、IM-BPM管理者がサービスタスク・リスナーにて実行する任意のJavaクラスをプロセス定義に含め、デプロイできる機能を提供しています。

そのため、IM-BPM管理者は任意のJavaコードをサーバ上で動作させることが可能です。

IM-FormaDesignerで作成した画面をフォームに設定した場合、並列のユーザタスク間でフィールドの入力値が共有されます。

パラレルゲートウェイ等を利用し分岐するプロセスを作成した場合、かつそれぞれの分岐先に同一の画面（IM-FormaDesigner）をフォームに設定したユーザタスクを配置した場合には、片方のユーザタスクで入力した入力値がもう一方のユーザタスクを開いた際に表示されます。

ユーザに付与されたロールが1000個以上存在する場合エラーが発生します。

ユーザに付与されたロールが1000以上存在する場合エラーが発生します。
これはデータベースの仕様に依存します。

大量テナントでの利用は行えません。

IM-BPMでは、1テナントあたり2スレッド消費する動きをします。

そのため、100テナントなど大量のテナントを作成される場合、大量のスレッドを消費するという問題があります。

Formaファイルアップロードアイテムに初期表示される更新日は現在日が利用されます。

BPMのユーザタスクでFormaアプリを利用した際に、ファイルアップロードアイテムに初期表示されるファイルの更新日は現在日が表示されます。

BPMのAttachmentサービスでは更新日は正しく管理されていますが、BPMから呼び出すFormaアプリは全て新規データとして登録されるため更新日を正しく表示する事ができません。

Oracle Databaseを利用する場合、特定の条件を満たしているとIM-BPMのセットアップが行えません。

Oracle Databaseを利用する場合、以下のいずれかの条件を満たしていると、IM-BPMのテナント環境セットアップが行えません。

- データベース接続ユーザに「SELECT_ANY_TABLE」権限が付与されている場合
- カレントスキーマ以外のスキーマ内にIM-BPMに関するテーブルが作成されている場合

スタートイベントが配置されていないプロセス定義がプロセス開始一覧に表示される場合があります。

IM-BPM for Accel Platform 2016 Winter 以前にデプロイしたプロセス定義の場合は、スタートイベントがなくプロセス開始の権限が設定されている場合はプロセス開始一覧に表示されてしまいます。再度デプロイすることによりプロセス開始一覧に表示しないようにすることが可能です。

アーカイブ後にデプロイ情報をアンデプロイした場合、アーカイブ情報からデプロイ情報を参照できなくなります。

アーカイブ後にデプロイ情報をアンデプロイした場合、アーカイブ情報からデプロイ情報およびプロセス定義情報を参照できなくなります。

アーカイブ後、プロセス情報を参照する場合は、アンデプロイを行わないでください。

Internet Explorerで2083文字を超えるURLを使用できません。

Internet Explorerで2083文字を超えるURLを使用できません。

2083文字を超えるURLを使用した場合、正常に画面が表示できません。

サブプロセス(Call Activity)に対して、deleteProcessInstance またはアンデプロイを実行しないでください。

— IM-BPM for Accel Platform 2018 Summer リリースノート 初版 2018-08-01
サブプロセス(Call Activity)に対して、deleteProcessInstance またはアンデプロイを実行しないでください。

APIを直接実行またはアンデプロイした場合、サブプロセス(Call Activity)の削除が実行できてしまいます。

システムで予約されているユーザコードがあるため利用できないコードがあります。

以下のユーザコードはシステムで予約されているため利用できません。

- im_activiti : IM-BPMのジョブの実行ユーザ

スタートイベント以外から開始されたプロセスインスタンスが開始済プロセス一覧画面に表示されます。

シグナルスタートイベントまたはメッセージスタートイベントから開始したプロセスインスタンスが開始済プロセス一覧画面に表示されます。

IM-BPMのIM-LogicDesignerタスクを利用したロジックフローのデバッグ実行時にエラーが発生する場合があります。

以下のIM-LogicDesignerタスクの戻り値にIM-LogicDesignerで利用できないデータ型の変数が含まれる場合、デバッグ実行時にエラーが発生します。

- 「プロセスインスタンス検索」
- 「エグゼキューション検索」
- 「タスク検索」
- 「個人タスク取得」
- 「グループタスク取得」

IM-BPMのプロセスから作成したワークフローの案件で実行されるロジックフローにてプロセス情報 (imbpmExecutionInfo) が参照できない場合があります。

以下の条件に合致する場合、ワークフローの案件で実行されるロジックフローにてプロセス情報 (imbpmExecutionInfo) が参照できません。

- ワークフローの案件を作成する申請タスクまたは起票タスクのプロパティ「タスク終了時の起票案件の操作」がcontinueに設定されている。
- IM-BPMのプロセスインスタンスがワークフローの案件の完了前に別のアクティビティへ遷移してしまっている。

IM-BPM Designer

IM-BPM Designerの利用は、非推奨です。

- IM-BPM Designerの利用は品質面での懸念があるため、非推奨です。プロセスデザイナーの利用を推奨します。
IM-BPM Designerを利用される場合は、十分な注意が必要です。

IM-BPM DesignerはWindows 64bit版のみの提供されます。

- IM-BPM Designerはeclipse 4.2 (Juno)をベースに動作しており、Windows 64bit環境のみの提供されます。
IM-BPM Designerの詳細な要件については「[システム要件](#)」を参照してください。

Activitiの動作仕様に準拠します。

- IM-BPM DesignerはActiviti Designerをフォークしています。IM-BPM Designer挙動に関してはActiviti Designerの動作に影響を受ける場合があります。
IM-BPM for Accel Platform では以下の事象を確認しています。
 - Undo Redo操作後BPMNダイアグラム図の保存に失敗する場合があります。
 - BPMダイアグラムエディタで右クリックで表示されるメニューを実行するとxmlの整合性が崩れる場合があります。
 - イベントやゲートウェイのオブジェクトの拡大・縮小を行うとアイコンの表示が崩れます。
 - Laneの外にあるフローエレメントをLaneの中にドラッグ&ドロップで移動しようとするときダイアグラムの表示が壊れます。
 - 同一Pool内に複数のLaneを配置したとき、Laneの配置順をマウス操作で移動することはできません。
 - Pool中に配置されているLaneを別のPoolへと移動することはできません。
実施する場合はLaneの追加と削除を行って対応してください。

オブジェクトが選択された状態でもプロパティ・ビューが編集できない場合があります。

- エディタ上のオブジェクトにフォーカスを当てた状態で別のビューを表示した後、再度プロパティ・ビューを開くとオブジェクトの編集ビューが表示されません。
再度編集を行う場合、編集したいオブジェクトに再度クリックして、プロパティ・ビューを表示してください。

システム上のプロセス詳細画面に表示されるプロセス定義と見た目が異なる場合があります。

- プロセス中の一部オブジェクトの表現が、デプロイ後のプロセス定義画面の表現と異なる箇所があります。
これは表示上の表現が異なるだけであって、実際の動作には影響ありません。

— IM-BPM for Accel Platform 2018 Summer リリースノート 初版 2018-08-01
アーティファクトのデータオブジェクトのサイズ拡大・縮小を行ってもアイコンのサイズは変更されません。

- アーティファクトのデータオブジェクトのアイコンはサイズが固定されているため、オブジェクトの範囲を拡大・縮小しても左上に固定して表示されます。
これはあくまでも表示の問題であり動作には支障ありません。

プール内にレーンを複数配置したとき、最上段のレーンを上へと拡張しようとする
とエディタ上の表示が崩れます。

- レーンのサイズを拡大するとき、プールの指定位置よりも上へとレーンのサイズを拡張するとエディタ上の表示が崩れます。
そのままファイルを利用すると、ファイルが壊れる可能性がありますので上記の方法でレーンの拡張をするのは避けてください。

スタートイベントとタイマスタートイベント等を共存させる場合に定義する順番
に制限があります。

- スタートイベントとタイマスタートイベントとシグナルスタートイベントを共存させる場合にスタートイベントを先に定義する必要があります。
スタートイベントを後に定義してしまうとデプロイ時にエラーが発生します。

複数階層のSubProcess配下にAnnotationを配置すると再度エディタを開いたとき
にそのAnnotationが表示されなくなります。

- SubProcessの中にさらにSubProcessを配置し、その中にAnnotationを配置して保存することで発生します。

BPMのプロセス内に配置する各種エレメントのIDは必須かつ一意にする必要があ
ります。

- BPMのプロセス内に配置する各種エレメントのIDは必須かつ一意にする必要があります。
重複したIDが設定された場合、デザイナーでの表示崩れやデプロイ失敗が発生します。

関連ドキュメントのファイル名はフォルダの階層に関係なく一意である必要があ
ります。

- BPM Designerに配置する関連ドキュメントは、フォルダ階層に関係なく一意となる必要があり
ます。
同一のファイル名が存在する状態でデプロイ資材を生成した場合、デプロイした後に意図しない
ファイルが表示される可能性があります。

プールの作成前に配置したエレメントは、プール作成後に削除する必要がありま

す。

- プールの作成前に配置したエレメントは、プール作成後に削除する必要があります。
プールの作成前に配置したエレメントが存在するプロセス定義をデプロイすると、エラーが発生します。

プロセスデザイナー

IDに使用できる文字に制限があります。

- プロセスデザイナーのIDに使用できる文字に制限があります。
使用できる文字は以下です。
 - 大文字小文字のアルファベット
 - 半角数字
 - アンダースコア
 - ハイフン
 - ドット
- 先頭の文字のみ、さらに使用できる文字に制限があります。
 - 大文字小文字のアルファベット

ブラウザの種類によって、プロセス定義のサムネイル画像の内容が異なります。

- Internet Explorer 11の場合、プロセス定義を保存した際に作成されるサムネイル画像に以下の情報が描画されません。
 - フローエレメントのラベル
 - フローエレメントの種類を表すシンボルマーク

XML表示機能により表示したXML定義と、プロジェクト詳細画面からダウンロードしたXML定義では内容が完全一致しない場合があります。

- XML表示機能により表示したXML定義と、プロジェクト詳細画面からダウンロードしたXML定義では内容が完全一致しない場合があります。
- ただし、エスケープ文字の扱いなどXMLの表現として差異があるだけで、プロセス定義の意味合いに差異はありません。

保証規程

保証内容及び対象

この保証規程（以下、「本書」という。）並びに貴社が当社と締結した一切の契約が定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）

及び制限事項の範囲内にて貴社が本製品を利用することを条件として、当社は貴社に対し、本製品に同封され、または当社ホームページ（<http://www.intra-mart.jp/document/library/?product=bpm>）に掲載されているマニュアルの最新版のとおり本製品が動作することを保証します。

なお、当該保証は、貴社における内部的使用を目的とする限りにおいて適用されるものです。

また、当該保証は、当社の一方的な裁量により、無償で交換若しくは修補、又はかかる本製品の対価として

イントラマートが貴社から受領した金額の返金のいずれかの方法によるものとします。

上記の対応は、正規の当社製品を購入され、適法かつ誤りなくユーザ登録を完了されたお客様のみに行うもので、当社はその他の対応又は保証、特に本製品をインストールしたハードウェア、接続製品、及びそれらに保存されたソフトウェア、データ等の保証（但し、これらに限られない。）は一切行いません。

保証の適用除外

下記の場合は動作保証が適用されません。

- 貴社が、本書又は貴社が当社と締結した一切の契約に定める要件（システム要件を含むがそれに限らない。）
その他の制限事項の定める範囲内にて本製品を利用しなかった場合
- 火災、地震、水害、落雷、ガス害、塩害およびその他の天災地変、公害等の外部的事情による誤動作の場合
- 合理的な使用方法に反するご利用に起因する場合
- 貴社あるいは第三者が改変・変更等及びそれらの作業を行ったことに起因する場合
- 本製品以外のソフトウェア、ハードウェア等との互換性の問題から生じる場合

免責

本製品に関する当社の損害賠償責任は、理由のいかんを問わず、本製品の「ソフトウェア使用許諾契約書」に定める責任の限定の範囲内といたします。

その他の契約との関係

本製品の保証に関して、貴社が当社と締結した一切の契約と本書の間に齟齬がある場合には、本書の記

著作権および特記事項

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上